【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和３年度学校評価 計画

学校名	佐賀市立諸富南小学校

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている（８０％以上）
Ｂ：おおむね達成できている（６５～７９％）
Ｃ：やや不十分である（５０～６４％）
Ｄ：不十分である（５０％未満）

1　前年度　評価結果の概要	・家庭学習における自学の取組について、選択制や内容の工夫等を学校全体で考えていく必要がある。 ・「生活指導の四本柱」に関しては、よくなってきているので継続して取り組んでいく。また、学校内だけでなく、家庭でもできるような子に育てていく。 ・教師の指導力は徐々に高まり、児童の学習意欲や集中力が向上しているので、今年度も指導方法の研究を継続して行っていく。算数タイムなど、基礎基本の徹底にも取り組み、テストの点数向上に努める。 ・良いところは継続して、ほめてのばし、改善点は具体的手立てを取り、全職員の共通理解で足並みを揃えて取り組んでいく。
2　学校教育目	ふるさとを愛し、「夢」「ふれあい」「感動」のなかで、生き生きと輝く子どもの育成
3　本年度の重	①　進んで考え共に学び合う子どもの育成をめざし、授業改善を図る。 ②　家庭・地域と連携し、基本的なカを育成する日常活動の充実を図る。 ③　人権教育を充実させるとともに、特別支援教育に対する意識をさらに高める。

4　重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目

評価項目	重点取組：取組内容	重点取組：成果指標（数値目標）	具体的取組	主な担当者	最終評価：達成度（評価）	最終評価：実施結果	学校関係者評価：評価	学校関係者評価：意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●「友達の意見をしっかりと聴いたり、自分の考えを友達に伝えたりすることができた」と思う児童の割合を80%以上 ●県学力学習状況調査とCRTテストで、昨年度の結果を上回る	・授業の中で「めあて」と「まとめ」を明確に示し、確実な知識の定着化を目指す。 ・算数科における「聴き合い活動」を取り入れた授業を各教科・領域で行い、思考力、活用力を育てる学習を進める。 ・朝の時間に算数スキルタイム、国語スキルタイム、スピーチタイムを行い基礎基本の定着を図る。 ・3年から6年の算数で各学級週3時間以上、児童一人一人の興味関心や課題の習熟度などを考慮した、少人数やTTの授業を実施する。	・学力向上対策Co. ・研究主任 ・「やる気の子」	B	・教師が全教科に渡って、毎時間「めあて」や「まとめ」を明確にして授業に望んでいた。 ・友達の考えを聞くことができると答えた児童の割合は95%、自分の考えを友達に伝えることができると答えた児童が81%である。聴き合い活動を通して、県の学習状況調査では、4年国語「相手に伝わるように理由を話す」や6年「立場や意図を明確にしながら考えをまとめる」という項目では県の正答率を上回る成果が出ている。 ・県の学習状況調査の結果から、基礎基本の定着に向けて、算数スキルのプリントの内容や検定制度の導入など、さらに改善が必要である。 ・2学期以降、一人1台タブレットの使用が始まり、eラーニングなど授業での活用を取り入れてきた。今後、さらにタブレットを活用し、個別最適化された学びを推進する必要がある。 ・県の学習状況調査とCRT検査では、1学年を除いて昨年度の結果を下回った。また、両検査共に、学年が上がるにつれ対基準比が下がっている傾向にある。	B	・タブレットの活用や学び合いの雰囲気が高まってきていると思います。さらなる活躍を期待します。 ・人の話を聞く、自分の考えを伝える力がついてくれる取り組みだと思います。これからも続けてください。 ・全ての学力の下支えになるのが、国語力だと思います。どれだけの言葉を知っていて、自分のものとして使えているかどうかで差がでてくると思います。一行日記を書く学習がありましたが、お手紙を書くというのも、良いと思います。児童に何かたずねる場面では、児童が自分の言葉で答えるまで、しっかり待ちたいと思います。
	○保護者との連携による家庭学習の充実	○「子どもは家庭学習に取り組んでいる」という保護者の割合を80%以上	・基本的な家庭学習の習慣化を図るために「家庭学習の手引き」を配付し、保護者に懇談会や便り等を通して周知徹底を図る。 ・「夜9時からは、ネットもゲームも充電中」のステッカーについて、80%以上の児童が合い言葉にできるよう、周知する。	・学力向上対策Co. ・研究主任 ・「やる気の子」	C	・2回の学習強化週間や自学ノートの紹介などを行ってきたが、保護者アンケートでは、「進んで家庭学習に取り組んでいる」と答えた保護者の割合は60%に留まり、大きく指標を下回った。今年度は、昨年度よりわずかに意識は向上しているが、家庭学習に関する講話など、保護者の関心を向上させる手立てが必要である。 ・ステッカーの浸透や、外部人材による高学年向けの講話を実施した結果、児童アンケートでは、73%が午後9時からはネットやゲームをしていないと回答。	C	・学習意欲の動機づけとして、夢の実現のスモールステップとして学習（家庭での）の習慣をつなぐ凡事の徹底。あらゆる学校での活動は、自己実現・夢の実現とつながりを持たせることが大事だと思います。 ・保護者にも積極的に取り組んで欲しいです。PTAとしても保護者に発信していくように頑張ります。 ・保護者の協力なくして向上は見込めないところですが、結果として残念です。機会あるごとに発信しているのに何故わかっていただけないのかもどかしく思います。
●心の教育	●思いやりのある関わりができる児童の育成	○道徳の授業を年に1回以上保護者等に公開 ○「ありがとうの木」の取組で、カードを毎学期に1枚以上書くことができた児童70%以上 ○「友達に優しくしたり、優しくしてもらって嬉しかったりしたことがある」と感じる児童90%以上	・6月や12月のフリー参観デーや授業参観時に全学級道徳の授業を公開する。 ・道徳の授業の充実が図れるよう研修を行うとともに、学年部で話し合い実践する。 ・『ありがとうの木』活動を推奨し、呼びかけ、取り組ませる。 ・「承認」、「賞賛」を職員が率先して行い、児童の自尊感情を高め、居心地の良い集団作りを目指す。	・「やさしい子」 ・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・各学年主任	B	・今年度は、全クラスで道徳の授業参観が実施できたが、新型感染症予防のため、ふれあい道徳の意味合いが薄れていた。 ・「ありがとうの木」に全員が一人１枚は書くことができ、児童の86%は、日頃から友達のよいところをみつけていたという意識がある。数値的にも徐々に高まっている。 ・「友達に優しくしたり、優しくしてもらって嬉しかったりしたことがある」と感じる児童の割合は、９１%。 ・夏季休業中には、QUテストの分析と学級集団作りについての職員研修を行い、居心地の良い集団作りを実践している。	A	・ありがとうの木の活用、日常から人のいいところを見つける意識の高まりは大変良いと思います。個人や学校の強みです。 ・近年、大人でもモラル低下が危ぶまれているので、小学生のうちからしっかり学習し、大人になっても困らないようになって欲しいです。一番難しい問題ですが、学校と家庭が協力していかないといけないと思います。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめを受けたり、いじめたりすることなく、楽しい学校生活を送ることができた」と実感できている児童が90%以上	・毎月、児童アンケート調査を行い、いじめの早期発見に努める。 ・アンケート調査の結果をもとに、いじめ防止対策委員会で対応を協議し、迅速に対応する。 ・「生徒指導委員会」でいじめ防止に関する取り組みについて確認し、取り組んでいく。 ・校内研修によりいじめの対応方法について学ぶとともに、日々の教育活動の中でいじめの防止と早期発見に取り組む。 ・グループ活動における児童の相互理解や心の寛容性を高める関わりを日々行っていく。	・「やさしい子」 ・生徒指導担当 ・各学年主任	A	・毎月の生活アンケートを確実に実施し、内容は管理職と情報共有を行っている。気になる事案は、生徒指導担当や養護教諭、またSCと連携し、未然防止や早期対応に結びつけることができた。 ・児童アンケートでは、「いじめを受けたり、いじめたりすることなく、楽しい学校生活を送ることができた」と実感できている児童は89%。また、保護者アンケートでは92%と高く、いじめ問題等には早期対応ができている。 ・いじめ問題では、生徒指導担当と連携し、事実確認や早期対応に努めると共に、外部講師による講話等（スマホ・携帯安全教室・いじめ防止教室）を実施しながら、予防に努めた。	A	・アンケート調査の活用、どんな小さな困り感も見逃さずにきちんと対応されていうと思います。外部との連携も、積極的で、加害の立場や被害の立場双方に寄り添い報告・連絡・相談、そしてその見届けまで、きめ細かに行われています。 ・いじめの種類が増えています。家庭でも気づきにくい事も、先生たちは発見でいるかもしれません。 ・先生方の素早い対応が全てです。児童の「ちゃんと訴えてもいいんだ。」「きいてもらえるから」という安心感が持てるのだと思います。自分達で、解決していける力を身につけてほしいと思いますが、「これ位のことは、…」と見逃さずに、小さいうちに声をかけ、介入していくことが多くなったように思います。良いことなのか、考えさせられます。
	◎志を高める教育	○小学校卒業後の自らの夢や目標をもち、その実現に向けて頑張ろうと思う気持ちをもつことの出来る児童が80%以上	・全ての学年において学校行事や各教科等を通し、自分の夢や目標を持つことの出来る機会を設ける。 ・4年生は二分の一成人式を通して、6年生は卒業に向けて、夢や目標を自ら考え、語ることができる場面を設ける。	・校長 ・総合担当 ・4，6年学年主任	A	・年間を通して、82%の児童は「将来の夢や目標を持っている」と回答。保護者にも、児童の夢や目標を共有してもらうために、感染症予防に努めながら、4年生「二分の一成人式」に参加を呼びかけ、97%の保護者に参列してもらった。	A	・夢や目標の実現には具体的に何をすべきか日常化に着目させることも一手だと思います。
●健康・体つくり	❶「運動習慣の改善や定着化」 ❷「望ましい生活習慣の形成」	❶学校での外遊びの時間が1週間で100分以上の児童70%以上 ❷「望ましい生活習慣の形成」 ・「やる気の子育成部」「やさしい子育成部」の計画に基づき、共通認識のもとに全校で統一した指導を行い、「生活指導四本柱」の各柱の定着率80%以上 ・「早寝、早起き、朝ご飯」の定着を図り、児童や家庭にもその協力を呼びかけ、達成率85%以上	❶「運動習慣の改善や定着化」 ・積極的に外遊びを奨励し、一日の運動時間を最低30分間は確保する（始業前、業間休み、昼休み、放課後等）。 ・体力を高めるための楽しい運動の紹介をしたり体育の授業で実践したりする。 ・めあてを持たせ「縄跳び運動」「ボールを使った運動」「運動場ランニング（3分間走）」等に取り組ませる。 ❷「望ましい生活習慣の形成」 ・重点目標達成委員会において取組状況を確認し、指導の徹底を図る。具体的な取組は各育成部で検討提案する。 ・「南っ子生活チェック週間」を学期毎に設定し、児童と保護者の規則正しい生活に対する意識向上を図る。	・「元気な子」 ・「やさしい子」 ・生徒指導担当	B	・児童アンケートでは、「外遊びの習慣がある」と回答した児童76%。 ・生活指導四本柱については、重点目標達成委員会を毎月開催し、取組状況を全職員で振り返りながら取り組んだ結果、各柱で児童の82%以上が実践できていると回答。 ・「早寝、早起き、朝ご飯」の定着については、保護者アンケートでは、「朝ごはんを食べている」については95%、「早寝早起きができている」は76%ができていると回答。全校的に、遅刻や不登校などの割合が高い傾向にあるため、今後、規則正しい生活についての啓発が必要である。 ・県「スポーツチャレンジ」については、2学期後半から3学期にかけて、体育の時間等に全クラスで取り組んだ結果、1クラスは教育長表彰を受けた。	B	・望ましい生活習慣の形成では、その学年、その個人の「一人前の像」をつくらせるのもいいのではないかと思います。本人が設立した「一人前の自分像」。例えば、朝は自分で起きることから始まり、親がそれを評価してみるのもいいと思います。その学年、その個人で「一人前像」は違うと思います。 ・クラブや部活じゃなく、友達と楽しく外遊びでできる育ってもらいたいです。高学年になるほど、スマホやゲームに夢中になっていまっていうようです。
●業務改善・教職員の勤き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・成績2期制の導入に等より業務改善ができた（職場全体として図られた）と感じる職員70%以上 ・昨年度より退勤時刻が早くなったと感じる職員70%以上	・働き方改革に関する研修を短時間で定期的に行い、意識改革を図る。 ・「定時退勤日」を水曜と金曜の選択とし推進する。 ・各自、昨年度より退勤時刻の20分短縮を目指す。 ・成績2期制の導入や学校行事や会議等の精選を行い、職員の業務時間を確保する。	・教頭	A	・年間を通して、教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守することができた。 ・成績2期制により、成績付けの慌ただしさが無くなったり会議の精選ができたりしたことで、全職員が業務改善ができと回答。 ・職員アンケートでは、昨年度より退勤時刻が短縮できたと実感できた職員は94%と高い。しかし、昨年度より退勤時刻の20分の短縮は達成できていない。	A	・PTA会長になり、初めて先生方の業務の多さや多様化した学習指導について知りました。公私混同せず、休める時にしっかり休んでもらいたいです。 ・退勤時刻が早くなったと感じられる先生方が増えることを切に願います。学習、児童への対応に時間がとれるように、保護者、地域のサポーターに、何かできることはないでしょうか。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組：取組内容	重点取組：成果指標（数値目標）	具体的取組	主な担当者	最終評価：達成度（評価）	最終評価：実施結果	学校関係者評価：評価	学校関係者評価：意見や提言
○教職員の資質向上	○教員の専門性と意思の向上	○全職員が算数科を中心とした研究授業を1回以上	・研究指定3年の実績の上、確かな学力の定着と向上にむけて「わかる授業の実践」「振り返りの場の設定と充実」を校内研修等を通して実践化を図る。	・教頭 ・指導教諭 ・研究主任	B	・校内研究として算数科に取り組み、学級担任全員が研究授業を実施した。 ・全校授業研究会では、外部講師（2名）を招聘し、「わかる算数」や「楽しい算数」「特別支援学級における支援」について研修を行った。 ・全国学習状況調査や県の学習状況調査、またCRT検査の結果を分析し、学力向上委員を中心に、本校の強みと強化ポイントを確認しながら、より良い指導法を探った。	B	・「ふり返りの場」は、家庭でも定着できるように、保護者と連携していくことができればと思います。
○特別支援教育の充実と拡張	○支援が必要な児童に対する理解と支援の在り方	○「学校が楽しい」と感じる児童90%以上 ○通常の学習や生活指導において、合理的配慮を行っていると回答できる職員が95%以上	・担任・級外・生活指導員同士の情報交換の場を確保し、児童理解に努める。 ・児童の困り感に寄り添い、早期発見、早期対応を行う。 ・「職員連絡会」等で見守りたい児童の状況について報告し、全職員の共通理解を図る。 ・月１回の「生徒指導協議会」では、児童への適切なサポートについて協議する。 ・スクールカウンセラー、巡回相談訪問、ケース会議を通して、支援方法を探るとともにミニ研修会を実施し特別支援に対する啓発活動を行う。 ・個別の支援計画をもとに、継続的な支援を図る。	・「やさしい子」 ・特別支援教育Co.	B	・児童アンケートでは、「学校が楽しい」と感じている児童の割合は徐々に上がり、最終的に89%である。 ・週1回の「職員連絡会」や月１回の「特別支援及び教育相談会」では、配慮を要する児童について現状を把握し、全職員で支援や指導の一貫性を図った。 ・生活支援員や担任からの情報をもとに、必要に応じて巡回相談や講師招聘を行い、専門的な支援の方法を学んだ結果、児童の学習意欲が向上し、登校する日数や学習に集中できる時間が増えた。 ・適宜、ケース会議を開きながら、児童や保護者の困り感を情報共有し、個別の指導を行ったり、生活指導による支援を行ったりしたことで、児童の学習の意欲を向上させることができた。 ・個別の支援計画を学期毎に更新し、継続的な支援を図った。	A	・校内での様々な会議（子供保護者の困り感等について）の充実と、その支援が支えている「学校が楽しい」児童の割合が増加傾向にあることは素晴らしいと思います。 ・年度途中で気になる児童が増えてきたように感じますが、カウンセラー等につなぐこと、保護者の理解を得ること等を継続してよろしくお願いします。南小は、支援が手厚いとの声が外部からも耳にします。ありがとうございます。

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・次年度への展望	・「めあて」や「まとめ」を明確にした授業スタイルや、「聴きあい活動」を取り入れた学び方については確立できている。今後は、一人ひとりの活用の時間の充実を図り、十分な活用力をつけていきたい。 ・読書量が随分増加してきた。家庭での学習習慣や読書の定着・充実に向けて、さらに保護者や地域にその必要性を発信したい。 ・安全で、安心できる落ち着いた学校となってきた。今後も引き続き「生活四本柱」等、基本的な力を育成する日常活動の充実を図りたい。 ・個別最適な学びの充実に向け、児童理解や適切な支援・GIGAスクールについて、適宜職員研修を行っていきたい。